



9条世界会議 海外ゲストの顔ぶれ (2008年4月27日現在)

基調講演者(5月4日)



マイレッド・コリガン・マグワイア Mairead Corrigan Maguire
北アイルランド／ピース・ピープル。1976年ノーベル平和賞受賞

マイレッド・コリガン・マグワイアは、北アイルランドにおける暴力を終わらせる運動で、1976年、ベティ・ウィリアムズと共にノーベル平和賞を受賞した。マイレッドは、IRA（アイルランド共和軍）の逃走車の運転手が兵士によって撃たれた後に轢かれて亡くなったマグワイア家の3人の子どもの叔母であった。マイレッドは家族とコミュニティが直面したその暴力に立ち向かい、大規模な平和デモを組織し、流血の惨事を終わらせるためのアピールを行った。マイレッドはベティ・ウィリアムズとキアラン・マッケオウンと共に、非暴力社会運動によって公正で平和な社会を形成するための抵抗運動体である「ピース・ピープル」（平和の人々）の共同設立者で、現在、この会の名誉会長を務めている。

マイレッドは活動的な平和主義者で、情熱を持って非暴力社会的変化、政治的变化を起こそうと専心している。彼女はこう信じている。「私たちが核兵器と戦争を拒絶する時、私たちが人権と国際法を擁護する時、私たちが人殺しのない、非暴力の社会そして世界を築き、互いを殺し合うことを拒み、私たちの問題に対処するのに非暴力の解決方法を求める時、私たちは人類家族としての時代を迎えられるだろう。」



コーラ・ワイス Cora Weiss
アメリカ／ハーグ平和アピール代表。国際平和ビューロー(IPB)元会長

コーラ・ワイスは、大気圏での核実験を終結させるのに大きな役割を果たした「平和のために行動する女性の会（Women Strike for Peace）」の共同創始者であった60年代初期以来の平和活動家で、ベトナム戦争反対運動の指導者としても知られている。コーラは、ニューヨークの公立高校でボランティア教師として10年間活動していた。

彼女は、長年国連を支援し、1950年からは植民地化された国の独立を求めるアフリカの人々を招待している。そして、女性の地位向上や人権などに対するの平和運動に人生を捧げてきた。

1910年にノーベル平和賞を受賞した「国際平和ビューロー（IPB）」の元会長で、1999年の「ハーグ平和アピール」国際市民会議の会長として戦争廃絶キャンペーンに専念している。このキャンペーンでは、武力行使は公的に違法で、根本的に理にかなっていないという考え方を普及している。

また、この考え方を実行に移すため、「ハーグ平和アピール」は世界的に「地球平和教育キャンペーン」を展開している。

全体会での発言予定者(5月4日)



エマニュエル・ボンバンデ Emmanuel Bombande
ガーナ／西アフリカ平和構築ネットワーク

「西アフリカ平和構築ネットワーク」(WANE P)の共同創設者、そして事務局長であるエマニュエル・ボンバンデは紛争分析に専門知識を持ち、アフリカ全域の紛争緩和と紛争予防に係わる平和構築実行者、国際トレーナーである。彼は、西アフリカのコミュニティにおける調停に仲介者として関わり、ガーナ政府のコミュニティ内外の調停イニシアティブにおいて助言してきた。また、アクラ・ガーナのコフィ・アナン平和維持センターやサンド・スウェーデンのフォーク・ベナードッテ・アカデミーなどを含む多くの高等教育機関や平和構築機関において平和構築コースの教鞭をとってきた。また、様々な国連機関や西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)などに活発に関わりをもつ西アフリカの平和構築ネットワークにおいて、WANE Pのリーダーとしての指導力を発揮している。



ベアテ・シロタ・ゴードン Beate Sirota Gordon
アメリカ／元GHQ憲法起草者

ベアテ・シロタはウィーンで生まれ、家族が移民した東京で育った。そして、16歳になった時、両親は言語を勉強させるためにカリフォルニアにあるミルズ・カレッジに彼女を送る。戦時中、米国連邦通信委員会の外国放送サービス部、戦争情報局、タイム誌などで働いた。戦争終結後、日本に帰国し、連合国軍最高司令官総司令官、ダグラス・マッカーサーの翻訳家として働き始めた。また、アメリカが日本国憲法草案を作成した時、ベアテ・シロタは人権小委員会の一員として日本における男女平等についての条項(第24条)を担当した。ベアテ・シロタ・ゴードンは、1947年アメリカに帰国して以来、日米間の文化交流に多大なる貢献をしている。彼女は、ジャパン・ソサエティの元舞台芸術監督で、日本やアメリカの大学やその他の教育機関において多数の講演を行っている。



李 錫兌(イ・ソクテ) Lee Suk-tae
韓国／弁護士、人権活動家

弁護士として25年以上の経歴をもち、韓国における人権問題や環境問題などに幅広く取り組んできた。韓国環境運動連合の常任執行委員会や、韓国中央環境問題調整委員会などでも活躍。民主社会のための弁護士団では会長としての任も務め、人権問題活動家として活動している。



カルロス・バルガス Carlos Vargas Pizarro
コスタリカ／国際反核法律家協会副会長

コスタリカ大学法学部教授、弁護士。コスタリカ外務省にて1986年から1990年まで法務局長を務め、1987年から1989年の間は数カ国にて同国大使。彼はまた米州人権裁判所の法務特使として、1995年、核兵器の使用・脅威の合法性について勧告的意見の事案に関わった。バルガスはまた、拷問等禁止条約に対する選択議定書を作成する国連作業委員会の会長・報告者として貢献した。国際法・国際人権法の教授であるカルロス・バルガスは、コスタリカ弁護士協会とコスタリカ国際人権法協会のメンバーで、国際反核法律家協会（IALANA）の副会長でもある。



アン・ライト Ann Wright
アメリカ／元陸軍大佐・外交官

29年間米国の陸軍、そして国務省当局者として働いた後、2003年にイラク戦争に反対して公式に辞任した。外交局職員としていくつかの大使館を開設し、1997年のシエラレオネの内戦から2、500人も避難させるという英雄的行為で表彰された。

彼女は以下の4つの理由で辞任した。第一に、米政府が国連の支持なしでイラクを攻撃したこと。第二に、イスラエル・パレスチナの和平プロセスに対する「努力不足」。第三に、北朝鮮に対する「政策の欠如」。第四に、米国において人権の抑制。

シンディ・シーハンと共にキャンプ・ケーシーにてデモを行い、エーラン・ワタダ中尉の裁判の中で証人として登場し、米国における平和運動に深く関与している。

カーシム・トウルキ Kasim Turki
イラク／人道支援ワーカー



1976年11月27日生まれ。人道支援ワーカー。イラクアンバール州ラマディ在住。アンバール大学機械工学部卒業。イラク戦争中は共和国防衛隊に所属。イラク戦争直後4月28日にファルージャで起きた米兵によるデモ参加者乱射事件をバグダッドのメディアに報せに来たことをきっかけに、フリーのガイド兼通訳として米テレビCNNや日本人ジャーナリストに同行。同年6月、日本人と同行取材中に米軍に不当逮捕され9日間拘束。

釈放後、「イラク再建青年グループ」を主宰。これまでに学校などの修繕工事、診療所開設、避難民への緊急支援などを行っている。2004年からは日本の民間支援「ファルージャ再建プロジェクト」と協同し現場の指揮を執っている。2007年にラマディの様子を英語で記したブログがアメリカを中心に話題となるが、それを理由に再度米軍に拘束された。

日本語での作品集『イラクからの手紙 一失われた僕の町ラマディ』を出版。現在はイラクの現状や自分の戦争・占領経験についての本を執筆中。



エイダン・デルガド Aidan Delgado
アメリカ／イラク帰還兵

イラク戦争退役軍人であるアイダン・デルガドはイラク戦争中、平和主義に基づく良心的兵役拒否者として応募、受諾されたが、それはアブグレイブ刑務所にて起こっていた虐待を目撃した後だった。そして、デルガドはアブグレイブ刑務所でおこっている残虐行為の写真や話をイラクから故郷アメリカへ持ち帰ってきた。

現在、70人のメンバーで構成されるグループ「平和のためのフロリダ」を2005年にワシントンに連れていくなど、多くの反戦イベントに参加したり、多数のインタビューや戦争に関する映画などにも出演している。2007年8月に『アブグレイブの経典』出版。

分科会での発言予定者(5月5日)



ヤスナ・バスティッチ Jasna Bastic
ボスニア／ジャーナリスト

サラエボから旧ユーゴスラビアへ、故郷からボスニア紛争時に亡命し難民としてスイスチューリッヒに移住。フリーランスのジャーナリストとしてヨーロッパ各地で行われる旧ユーゴ関係の数々の平和会議に参加し、反戦運動家としても活動。メディアと紛争のスペシャリストとしてピースボートのヨーロッパオフィスそして平和教育プログラムのプロジェクトマネージャーとして活躍。



フローレンス・ンパエイ Florence Mpaayei

ケニア／ナイロビ平和イニシアチブ

ナイロビ平和イニシアチブ・アフリカ事務局長。東アフリカ、グレートレイク地区、アフリカの角やインド洋地域の開発や難民移住問題を取り扱う教会系や非政府の人道支援団体にて活動。紛争転換のトレーニング、ファシリテートや支援事業にて多数の活動経験あり。

現在 GPPAC(武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ) の東アフリカ地域イニシエーター。



エル・ハジ・ムボッチ El Hadj Mbodj
セネガル／法学者

チェアンタディオ大学ダカール・セネガル校の公法学及び政治学教授。コンゴ共和国議会で専門法律家として、地方分権化やコンゴの司法制度に関する法律の草案づくりに関わるミッションに参加。セネガルの人権委員会の元メンバーでチェアンタディオ大学人権と平和学会の元ディレクター。



権 赫泰(コン・ヒョツテ) Kwon Heok Tae
韓国／聖公会大学教授

高麗大学史学科卒業、一橋大学から経済学博士、山口経済学部助教授を経て、現在、韓国・聖公会大学日本学科教授。戦後日本の平和理念の歴史的形成過程を丹念に追い、最近の東北アジア情勢における流動化に伴う日本の進路について積極的に発言をしている。

最近では、韓国において「平和憲法連絡会議」という市民団体、研究者、弁護士から成るグループを組織し、東北アジアにおける日本国憲法9条の意義を検証する作業を進めている。主要論文に「日本の憲法改定と日韓関係の非対称性」(『創作と批評』05年秋号)、「日韓関係と『連帯』の問題」(『現代思想』2005年6月、青土社)、「改憲と歴史認識を周辺国から問う」(『世界』2007年10月、岩波書店)等がある。



ニコラ・リスクティン Nicola Liscutin
ドイツ/ロンドン・パークベック大学日本学科プログラムディレクター

ロンドン・パークベック大学日本学科プログラムディレクター。歴史認識、記憶、ジェンダーや国民アイデンティティの近代日本における構築や描写について研究、指導。特に「慰安婦」問題、歴史教科書問題、博物館や映画やマンガなどの大衆文化における太平洋戦争の描写について重点的に研究。「慰安婦」問題についての（ドイツ語の）著書を2008/9の冬に出版予定。

VAWW-Net Japan（戦争と女性への暴力日本ネットワーク）のメンバーでもある。



ジョセフ・ガーソン Joseph Gerson
アメリカ/アメリカン・フレンズ・奉仕委員会

1976年よりアメリカフレンズ奉仕委員会に加わり、現在はニューイングランドにて平和経済安全保障プログラムを担当している。このプログラムは、核戦争の脅威やアジア太平洋・中東における軍事支配などに象徴されるアメリカの覇権に対し、挑戦し、克服しようとするもの。60年代中盤からアメリカにおける正義や平和運動に関わり80年代には核凍結運動を開始。世界における核廃絶、反基地運動、平和・反戦同盟発足の中核となってきた。



陳 瑤華(チェン・ジョーファ) Chen Jau-hwa
台湾/東呉大学

東呉大学哲学科助教授。人権プログラムディレクター。人権の哲学、人権政策、フェミニズムなどが専門。研究家として中国語、英語、ドイツ語で著書。ピースタイム協会の役員、人権保護推進タスクフォース理事、台湾真実和解委員会役員、東呉大学ジェンダー平等教育委員会メンバーなどで活躍。



班 忠義 Ban Zhong Yi
中国/ノンフィクション作家・映画監督

1958年、中国遼寧省撫順市出身。1987年来日。上智大学・大学院を卒業後、中国残留婦人問題に取り組み、「曾お婆さんの海」（朝日新聞社）を出版、第7回ノンフィクション朝日ジャーナル大賞を受賞する。1995年、中国人元“慰安婦”を支援する会を発足。96年、「近くて遠い祖国」（ゆまに書房）出版。98年、雲南の子供たちの教育を支援する会発足。99年、ドキュメンタリー映画『チョンお婆さんのクニ』（シグロ製作）を監督。06年9月に書籍「ガイサンシー《蓋山西》とその姉妹たち」（梨の木舎）を出版。07年、ドキュメンタリー映画「ガイサンシー《蓋山西》とその姉妹たち」（シグロ制作）を監督。



ガス・ミクラット Gus Miclat
フィリピン／国際対話イニシアティブ共同代表

フィリピンの団結・権利擁護団体「国際対話のためのイニシティブ」の共同設立者・代表。マルコス政権に強く反対する反独裁運動に深く関与し、1985年以来、市民外交や国際社会連帯運動などに関わっている。元ジャーナリスト、編集者、大学の講師、演劇役者及び主催者で、現在はアジア太平洋連帯連合（APSOC）の地域コーディネーター。GPAC（武力紛争予防のためのグローバル・パートナーシップ）の東南アジア地域のイニシエーターでもある。



エレン・ウッズワース Ellen Woodsworth
カナダ／バンクーバー元市議会議員

社会正義、経済的平等や健全な環境計画のコミュニティー活動者。2002年から2005年までカナダ・バンクーバーで市議会議員を務め、以来、気候変動や被害削減のフォーラムを主催し、2006年の世界平和フォーラム（WPF）の書記や地域コーディネーターを務めた。

トロント生まれで、日本で高校に通い、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学を卒業。カナダのトロントで女性の移動図書館を経営し、「もう一人の女性（The Other Woman）」という女性の新聞を創立。「家事労働に賃金を国際キャンペーン」の活動のために、イギリスのロンドンに渡った。1996年に、政府の国勢調査に賃金のない家事労働を含むことに成功した全国連合と活動し、ブリティッシュ・コロンビア・アクション・カナダ・ネットワークの議長も務めた。



丁 京蘭(チョン・ギョンラン) Jung Gyunglan
韓国／平和をつくる女性の会

6.15南北共同宣言の韓国委員会女性の部副事務局長。平和をつくる女性の会元議長。ポリシーディレクターとして再統一やジェンダー問題についての政策づくりに関わる。平和構築、朝鮮半島の統一に従事。「朝鮮半島 50 年間の分裂構造と現状」内の「南北女性の現状」共著。



アウキ・ティトゥアニャ Auki Tituana
エクアドル／コタカチ郡知事

1996年にキチュア先住民として初めてエクアドル・コタカチ郡の知事に当選、現在3期目。民衆議会の設立と住民の直接参加型民主主義の推進、生態系保全自治体宣言の条例化などの実績により、世界の模範となる自治体に与えられる「国際ドバイ賞」とユネスコ「平和都市賞」を受賞。また多国籍企業による鉱山開発計画には住民多数の側に立って反対、2007年、エクアドル政府による撤退命令へと導く。2005年日本国際博覧会にて「地球を愛する100人」にも選ばれている。



アリス・スレーター Alice Slater
アメリカ／核時代平和財団

核時代平和財団のニューヨーク所長であり、国際調整委員および持続可能エネルギー部会主宰者でもある。核兵器廃絶NGOネットワーク「アボリション2000」創設者、核政策法律家委員会および中堅国家構想の理事、また、国連広報局のNGO理事会メンバーとして国連において核や環境問題に関して、数多くの会議、ラウンドテーブルなどを主催してきた。核政策研究所および宇宙における核兵器と原子力に反対する地球ネットワークの顧問もつとめている。



クリストファー・ウィーラマントリー
Christopher G. Weeramantry
スリランカ／元国際刑事裁判所(ICJ)判事

国際反核法律家協会（IALANA）の会長。国際司法裁判所で、1991年から2000年まで判事、1997年から2000年まで副所長を務めた。1996年、核兵器の使用・威嚇の違法性に関するICJの勧告的意見に携わる。ウィーラマントリー平和教育研究国際センター（WICPER）を設立し、2006年にはユネスコ平和教育賞を受賞。多くの法律や人権に関する諮問機関のメンバーで、複数の大学で名誉教授を務めている。2007年に、スウェーデンでもう一つのノーベル賞と呼ばれる「ライト・ライブリフッド賞」を受賞。



キャスリン・サリバン Kathleen Sullivan
アメリカ／軍縮教育家

軍縮教育家として、特に核問題と20年以上関わり、アメリカ、ヨーロッパ各国、インド、インドネシア、オーストラリア、日本などで若者、コミュニティ、政府や核産業の代表に対し、核軍縮教育において活発に働きかけてきた。元「社会的責任のための教育者の会・核兵器教育行動プロジェクト」のコーディネーターで、現在は国連軍縮部の教育コンサルタント。ロバート・リクター監督と共に、長崎の被爆者についての映画「The Last Atomic Bomb ～最後の原爆～」を制作。スティーブン・オカザキ監督の作品「白い光/黒い雨：広島長崎の破壊」の制作コンサルタントも務めた。



ポール・サオケ Paul Saoke

ケニア／公衆衛生専門家、社会的責任を求める医師の会

公共衛生スペシャリスト、「社会的責任のための医師会」ディレクター、ISDE（環境のための医師国際教会）副代表。ストックホルム残留性有機汚染物質条約設立会議で活躍。子供のための健康的な環境同盟メンバー。

現在ケニアにおける条約実施のための委員会の副代表 DDT対策ケニア計画実施のエキスパート。ケニアのDDT対策開発において尽力。



フレデリック・デュラン Frederic Durand

スイス／国際平和ビューロー(IPB)

国際平和ビューロー代表として9条世界会議に参加。グループ「軍隊のないスイス」に属する活動家。日本語と日本文化を大学で専攻し、修士論文は「戦後日本の平和運動」。国連欧州本部付きの朝日新聞ジュネーブ支局で3年間働く。現在「開発のための軍縮」ネットワークを強化するために国際平和ビューローに所属。



コラソン・ファブロス Corazon Fabros

フィリピン／弁護士

フィリピン民衆弁護士ユニオン、自由弁護協会など創立。30年にわたり、反基地、反核、平和運動で活躍。現在外国基地廃絶国際ネットワークの調整委員会メンバーとして、フィリピンにおける「フィリピン反戦ネットワーク」の呼びかけ代表と非核独立太平洋事務局である太平洋資料センターの代表を務めている。



林 宰成(イム・ジェソン) Lim Jaesung
韓国／戦争のない世界

良心的兵役拒否者。兵役を拒否し16ヶ月間投獄される。2006年5月に出所し2002年に創設され良心的兵役拒否者の権利を守る「戦争のない世界」などの平和ムーブメントに関わる。修士課程で軍事や韓国の平和運動を中心に平和学を学ぶ。



クリストフ・バーベイ Christophe Barbey
スイス／弁護士、平和研究家

国や紛争の非武装化を目指し2001年にスイスで創設された個人組織（APRED www.demilitarisation.org）コーディネーター。人権、平和や平和政策のない国に対してリサーチやアドボカシーを行う。

APREDは平和的紛争解決を目指し、1989年から軍隊のない国をめぐる。



ベティ・リアドン Betty A. Reardon
アメリカ／平和教育国際学会（IIPE）、コロンビア大学ティチャーズカレッジ

コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ平和教育センター創設理事、平和教育の継続を進む世界的な協会である「国際平和教育研究所（IIPE）」の創設者。ハーグ平和アピールの平和教育グローバル・キャンペーンの創始者。2000年のユネスコ平和教育賞式に於いて選外佳作となり、他にも数多くの賞を受賞。平和教育の概念や理論を中心に活躍し、その理論を教育や教育体系開発で実用化することに重点を置く。平和教育の活動の特徴は、人権の原則やフェミニズムの見解を地球規模問題に含むことである。国際平和教育運動には40年以上、国際女性人権運動には25年以上関わる。